



防災
特集

9月1日は防災の日です!

風水害に備えて

～風水害防災について考えよう!～

Special Edition

詳細 危機管理室 ☎32-6280 <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/> で危機管理室 検索



9月1日は防災の日です。防災と聞くと噴火や地震防災というイメージがありますが、風や雨による災害もいつ起こるかわかりません。これからの季節は台風などが増え、被害の発生しやすい時期になります。今回の特集では風水害防災についてお知らせします。



覚生川の鉄道事故(昭和25年)



科学センターの倒木(平成16年)

風水害とは

風水害とはその名の通り、強い風や豪雨によってもたらされる災害のことです。おもに台風によって起こることが多いことから、台風災害とも言われています。風による被害と雨による被害を比べると、日本では雨による被害のほうが大きいのが普通です。その被害としては洪水、土砂災害、高潮、高波、暴風や突風による家屋倒壊などがあります。また、風を伴っているものは、単に雨による被害よりも大きな被害となることがあります。たとえば台風や高潮、高波による被害がこれにあたります。

苫小牧の災害発生状況

苫小牧での災害を考えると、樽前山の噴火災害、地震災害などを考えがちですが、過去に多くの風水害が発生しています。噴火や地震の災害に備えるとともに、風水害に対する心構えも必要になります。風水害の特徴的なものとしては、記憶に新しい平成16年9月7日

苫小牧の気候について

苫小牧では4月下旬から5月にかけて移動性高気圧が広く日本を覆うため、好天が続きます。しかし、梅雨時期に梅雨前線が北海道南岸に停

発生年月日	災害の種類	雨量	被害状況	備考
平成13(2001)年 9月11~12日	台風15号	182mm	道路冠水	-
平成14(2002)年 10月1~2日	暴風雨	-	沼ノ端・植苗の一部872世帯で停電	最大瞬間風速22.9m/s
平成15(2003)年 8月9~10日	台風10号	116mm	-	胆振東部地方や日高西部に甚大な被害。苫小牧にも大量の流木が漂着
平成16(2004)年 8月31日	台風16号	-	-	最大瞬間風速 23.0m/s
平成16(2004)年 9月7~8日	台風18号	-	-	最大瞬間風速32.7m/s 重傷者1人、軽傷者30人、6,859戸で停電、住宅の一部破損40件、大量の風倒木が発生し、その被害面積は1,965haに及び
平成16(2004)年 11月20日	暴風	-	軽傷者2人	最大瞬間風速 30.8m/s
平成17(2005)年 9月6~7日	台風14号	110mm	道路冠水	-
平成17(2005)年 11月28~29日	暴風	-	3,220世帯で停電	最大瞬間風速 33.6m/s
平成18(2006)年 8月18~19日	大雨	48mm	道路冠水、半地下浸水	-
平成18(2006)年 9月5~6日	台風12号	-	高波により市道東部南通線が冠水。小泉の沢護岸損壊	-
平成18(2006)年 10月7~8日	暴風	-	-	最大瞬間風速 26.7m/s 最大風速 12.9m/s
平成20(2008)年 7月28日	大雨	-	道路冠水	15時50分から16時50分の1時間 降雨量33mmに達する
平成20(2008)年 10月9日	大雨	-	道路冠水、半地下浸水	17時から17時10分の10分間降雨 量20mmに達する
平成21(2009)年 10月8~9日	台風18号	-	街路樹5本、街路灯1本、校地内木柵倒壊	最大瞬間風速 20.9m/s 最大風速 12.1m/s



風水害が発生する要因

大雨により発生する被害の程度は、地域や地形・地質などの自然条件と社会基盤整備などによって異なりますが、災害が起る要因は、大雨による冠水、土砂災害、高潮、高波、暴風や突風による家屋倒壊などがあります。また、風を伴っているものは、単に雨による被害よりも大きな被害となることがあります。たとえば台風や高潮、高波による被害がこれにあたります。

大雨により発生する被害の程度は、地域や地形・地質などの自然条件と社会基盤整備などによって異なりますが、災害が起る要因は、大雨による冠水、土砂災害、高潮、高波、暴風や突風による家屋倒壊などがあります。また、風を伴っているものは、単に雨による被害よりも大きな被害となることがあります。たとえば台風や高潮、高波による被害がこれにあたります。



台風などの強風により、樹木は根元から倒される

■ 苫小牧での降雨量ランキング 【観測史上1位~10位(年間を通じての値)】

● 苫小牧の日最大1時間降雨量(mm)			● 苫小牧の日降雨量(mm)		
順位	日最大1時間降雨量(mm)	観測日	順位	日降雨量(mm)	観測日
1	126.0	昭和25(1950)年8月1日	1	447.9	昭和25(1950)年8月1日
2	86.0	昭和26(1951)年9月11日	2	195.5	昭和62(1987)年8月26日
3	79.5	昭和54(1979)年10月3日	3	176.0	昭和56(1981)年8月4日
4	79.0	昭和59(1984)年9月18日	4	168.5	昭和56(1981)年8月5日
5	65.4	昭和30(1955)年8月19日	5	150.0	平成13(2001)年9月11日
6	51.8	昭和37(1962)年8月30日	6	135.3	昭和32(1957)年8月13日
7	46.5	昭和57(1982)年10月20日	7	132.4	昭和22(1947)年9月15日
8	45.6	昭和21(1946)年10月15日	8	124.0	平成8(1996)年8月23日
9	43.5	昭和52(1977)年8月5日	9	122.0	平成13(2001)年10月11日
10	40.5	平成12(2000)年7月25日	10	121.0	昭和59(1984)年9月18日

統計期間(1942年4月~2010年7月)

きる一つの目安として、その地域の平均年間降水量の約20分の1を超える雨が一日に降った場合と言われています。また、平均年間降水量の多寡に関わらず、その地域で10年に1度のような大雨が降れば、地域で災害をもたらす恐れがあります。災害の発生が少なくない地域でも、決して安心というわけではありません。

■ 風水害によって発生する被害

種類	発生する被害など
洪水	主に大雨によって河川があふれ、堤防の決壊などにより水が陸地に流出して浸水などの被害をもたらします。
土砂災害	大雨によって地盤が緩み、がけ崩れや地滑り、土石流などが現れ、道路断断や家屋に被害をもたらします。
高潮・高波	台風などの風により、海面が普段以上に大きく持ち上げられ、沿岸に押し寄せ浸水などの被害をもたらします。
突風	台風などによる強い風により、家屋破損や倒壊、電線の切断による停電などの被害をもたらします。